これからの私

－愛全病院に勤務し3年半、10月からは修士号取得を目指します－

Q：愛全病院で学んだこと

配属された障害者施設等一般病棟は、雰囲気がとても良かったです。
ケアカンファレンスでは、患者さんの個別性のあるケアプランが検討されました。
患者さんが食事を食べられるようになるためには、どのように介入したらよいか。看取りの患者さんには、その人の興味や、生活の習慣を考え、食べられるものを提供したり、面会できるように調整したり、医師に痛みの状況を伝え、対応を相談したり、最期までその人らしく過ごせるように考えて関わることで、患者さんの変化を感じ、やりがいにつながりました。

私は、3年目になった時、カンファレンスで、自分からアイデアを出したり、相談できるようになり、とても楽しかったです。

Q：心に残った看護

就職して2年目にコロナ禍となり、愛全病院も面会ができなくなりました。
担当していた患者さんが、「息子に会いたい、会いたい」とずっと言われていましたが、面会できずに亡くなりました。とても悲しかったです。コロナ感染対策という状況で仕方なかったと思いますが、私が患者さんの立場だったら、家族に会えないことは悲しいと思います。なにかできることはなかったのかとずっと気にかかっています。
病気は、薬でよくなることもあるし、調整もできます。しかし、家族と会いたい気持ちは、薬を飲んでも治りません。さらに会いたくなります。今の状況でどうしたら患者さんの思いを叶えることが出来るか、看護でできることを考えていこうと思います。

Q：大学院進学の動機

3年目になり、今後について考えました。
一つは、総合病院で5年間は働きスキルを高める。もう一つは、愛全病院で終末期の患者さんのケアを経験して多少知識を得ることが出来たので、大学院に行き、もっと深く勉強することでした。2つを考えた時、大学院にいき、経験した知識を深めるほうが現実的だと考え決めました。
中国では、緩和ケアに対して、イメージができておらず、弱い部分です。将来、中国に帰国する時は、緩和ケアを伝えることが出来るかなと思います。

Q：今後

10月から研究生、2023年4月から2年間修士課程を学びます。その後は、未定です。

4階2病棟
障害者施設等一般病棟勤務
郭　園　さん

郭さんと同時期に入職した私は、何かと郭さんの成長を見る機会がありました。コミュニケーションでは苦労したと思いますが、できないこと、わからないことを伝えられる郭さんだから、周囲のサポートも得られたと思います。そして、患者さんのために、看護でできることを常に考えている郭さん、素敵だなと思います。インタビュー時、表情が輝き、希望に胸が膨らんでいることが伝わってきました。
修士号取得に向けてエールを送ります。　看護部HP担当伊藤